

昭和町立押原小学校



押杜っ子

No. 3 令和8年6月19日 発行／古屋 正樹

「笑顔で団結！林間学校 2026」
～絶対成功！押原魂～



風になった俺たち..

5月19～20日、清々しい初夏の空の下、5年生がハケ岳の麓へ林間学校に行ってきました。5年生にとっては、4年生までずっと楽しみにしていた行事であり、仲間とともに過ごす、初めての宿泊学習でした。大自然の中、自然を知る、仲間を知るこの上ない機会となりました。

1日目、早速「野外炊事」からスタート。みんなで役割を分担し、カレーを作りました。みんなで苦労して作ったカレーの味は、家で食べるカレーとは一味違い、格別だったことでしょう。続いて「冒険ハイク」では、わくわくするようなチェックポイントが用意される中、それぞれの課題をみんなで協力してクリアしていきました。「ヤッホーの丘」では、文字通り「ヤッホー」と大声で叫び、気分も爽快でした。夕刻の「ナイト追跡」では、薄暗い森の中をドキドキわくわくしながら歩き、さながら肝試しのようでした。そして、初めて友だちと眠る夜、興奮のあまり眠れなかった児童も多かったようです。

2日目のメイン活動は、「美し森絵図ハイク」です。美し森の山頂を目指して、長い道のりを励まし合って歩きました。学校へ戻る頃には、疲れは感じているものの、楽しかった清里を離れる寂しさがこみ上げてきました。この林間学校を通し、ここで得られた経験を今後に活かしていこうと心新たにする5年生でした。

押原小伝統の「きずな祭り」

子どもたちが待ちに待った「きずな祭り」。この祭りは、押原小の伝統として位置づけられた児童会活動の最大行事です。

この祭りには、低学年生から高学年生までが一緒に活動することで、異年齢集団での交流を図り、学校生活を明るく楽しいものにするねらいがあります。文字通り、全校児童の「絆」を深めるための「きずな祭り」なのです。

準備の段階から6年生を中心として取り組んできましたが、「どんなお店にするか」「仕事は何が必要か」「役割はどうしようか」と、時間をかけてアイデアを出し合い、当日に向けた準備を入念に進めてきました。その甲斐あって、当日は順調に進み、皆生き生きと活動し、あっという間の2時間となりました。全18店それぞれが、趣向を凝らした内容になっていて、見ていてとても楽しそうでした。夢中になって挑戦する姿、責任をもって仕事する姿など、たくさんのかっこいい姿を目の当たりにし微笑ましく感じました。また、保護者の方にもたくさん来校していただき、子どもたちの生き生きとした姿をご覧いただくことができました。



前号でも触れましたが、学校は、国語や算数等の「教科学習」が第一の目的の場所です。しかし、実はそれだけではなく、人と人とのふれあいの中から学ぶ、教科以外の「学習」も大切にされる場所です。その1つがこの「児童会活動」です。こういった活動を通して、誰もが人として成長していきます。今回も、下級生を思いやりリーダーシップを発揮してくれた頼もしい6年生の姿と、全校みんなの笑顔がはじけ生き生きと活動する姿とを見ることができた、大きな意味を持つきずな祭りでした。



子どもたちによる手作りの活動。
アイデアいっぱいの活動となりました。

画像は一部修正しています